

令和5年(2023年)

「安全安心なまちづくりの日」道民の集い

開催結果報告書

北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議

日時 令和5年(2023年)10月11日(水) 15:00~17:00

場所 かでる2.7 [かでるアスピックホール] (札幌市中央区北2条西7丁目)

- 次第 -

1. 開会
2. 主催者挨拶
(1) 北海道知事 鈴木直道
(2) 北海道警察本部長 鈴木信弘
3. 来賓祝辞
北海道議会 環境生活委員長 中野渡志穂
4. 表彰
(1) 春日東町連合会 (富良野市)
(2) 蘭中地区子どもを守る推進協議会 (室蘭市)
(3) ラジオニセコ (ニセコ町)
(4) 東川町防犯協会 (東川町)
5. 基調講演
「犯罪予防の心理学-闇バイトを広めないための対策-」
「継続的な防犯ボランティアのために」
講師 東北大学大学院文学研究科・文学部
准教授 荒井 崇史
6. 活動事例発表
(1) 春日東町連合会
(2) 蘭中地区子どもを守る推進協議会
(3) ラジオニセコ
(4) 東川町防犯協会
7. 北海道警察音楽隊コンサート
8. 閉会

令和5年 安全安心なまちづくりの日
道民の集い
～みんなで築こう、安全で安心な大地～

●とき 10/11(水) 15~17時 (開場 14:30)
●ところ かでる2・7 (かでるアスピックホール) 札幌市中央区北2条西7丁目

プログラム

- 1 主催者挨拶、来賓祝辞
- 2 知事表彰式
北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞
- 3 基調講演
「犯罪予防の心理学-闇バイトを広めないための対策-」
「継続的な防犯ボランティアのために」
講師 東北大学准教授 荒井 崇史 氏
- 4 活動事例発表 (受賞団体)
- 5 北海道警察音楽隊コンサート

入場無料
事前申込制

【申込み方法】Web申込み (①②のいずれか)
① QRコードから読み込む
② 申込みフォームにアクセス
<https://www.hap.lg.jp/FGSASFFG>

主催 北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議
お問い合わせ先 北海道環境生活部 暮らし安全局道民生活課 電話011-206-6148
QRコードはQRコードリーダーのインストールが必要です。

※ 司会 吉田ともみ

((公財)日本道路交通情報センター)

(事務局)

北海道環境生活部 暮らし安全局 道民生活課

北海道警察本部 生活安全部 生活安全企画課

北海道教育庁 学校教育局 生徒指導・学校安全課



1. 開会

司会) 只今から、令和5年「安全安心なまちづくりの日」道民の集いを開催いたします。

この集いは、本日10月11日から20日までの10日間に実施される全国地域安全運動の一環として、鈴木直道北海道知事が会長を務めます北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議が主催するものでございます。

それでは、主催者・ご来賓の皆様をご紹介します。

はじめに主催者でございます。北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議会長、北海道知事 鈴木直道でございます。



続きまして、副会長の北海道警察本部長 鈴木信弘でございます。



同じく、北海道教育委員会教育長 倉本博史でございます。



同じく、札幌市長の代理で副市長 天野周治でございます。



同じく、公益財団法人北海道防犯協会連合会理事長 五十嵐敏明でございます。



同じく、北海道PTA連合会会長 後藤一樹でございます。



続きまして、御来賓の方を御紹介いたします。

北海道議会環境生活委員長 中野渡志穂様でございます。



続きまして、北海道公安委員会委員長 吉本淳一様でございます。



2. 主催者挨拶

司会) それでは、主催者を代表いたしまして、鈴木直道北海道知事から御挨拶を申し上げます。

鈴木知事、お願いいたします。

鈴木知事) 御紹介いただきました北海道知事の鈴木直道でございます。



令和5年安全安心なまちづくりの日「道民

の集い」の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、ご来賓の中野渡北海道議会環境生活委員長 吉本北海道公安委員会委員長をはじめ、多くの皆様にお集まりをいただきましたことに、厚くお礼を申し上げますとともに、お集まりの皆様には、日頃から、安全で安心な地域づくりの推進に格別のご理解とご協力をいただいておりますことに、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。本当に皆さんありがとうございます。

また、長きにわたり、地域の防犯活動に献身的に取り組んでこられたご功績により、本日、表彰を受けられる皆様に、心からお祝いを申し上げます。

さて、近年、本道における犯罪の認知件数は、減少傾向にあったわけですが、昨年は20年ぶりに増加し、本年も9月末現在で昨年に比べて約2割の増加となっており、子どもや女性を対象とする犯罪が依然として後を絶たない状況にありますほか、新たに闇バイトが全国的に問題となっております。

こうした中、犯罪を未然に防いでいくために、道民の皆様お一人おひとりが安全への意識を高め、地域が一体となって防犯活動に取り組み、犯罪が発生しにくい地域づくりを進めていくことが重要であります。

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し社会経済活動が活発になる中、道では、本年8月、初めての取り組みとして、道警察や道教委、市町村、関係団体の皆様と連携をしながら、全道で「夏の防犯、安全集中対策」を展開し、特に、社会経験の少ない若者が犯罪や事故に巻き込まれることのないよう啓発活動に取り組んで参りました。

本日から、10日間は「全国地域安全運動」の実施期間であります。道では、「安全・安心どさんこ運動」の推進はもとより、特殊詐欺被害に遭いやすい高齢者の方や子ども、女性に対する注意喚起など、道民の皆様や関係機関、団体の皆様と一体となって、安全で安心な地域づくりの実現に向けて取り組んで参ります。

皆様におかれましても、本日の集いを契機として「あいさつ、みまもり、たすけあい」の精神で、積極的な取り組みをよろしくお願いを申し上げます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。皆様よろしくお願ひ申し上げます。

司会) 続きまして、鈴木信弘北海道警察本部長から御挨拶を申し上げます。

鈴木警察本部長お願ひいたします。

鈴木道警本部長) ただいま御紹介いただきました北海道警察本部長の鈴木でございます。



本日は公私ともにお忙しい中、御来賓であります北海道議会環境生活委員長の中野渡様、北海道公安委員会委員長の吉本様を始め、多くの皆様に御参加をいただき、この集いが盛大に開催できますことに、心から感謝申し上げます。

また、皆様におかれましては、日夜、地域の安全安心のための活動に御尽力されていることはもとより警察行政各般にわたり、御理解と御協力をいただいておりますことに、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、道内の犯罪情勢であります。本年9月末における、刑法犯認知件数は、約1万6,700件で、昨年同期と比べ約2,300件増加しており、子供や女性を狙った犯罪や、特殊詐欺の被害についても、後を絶たず、依然として厳しい状況が続いております。

このような中、本日から始まります全国地域安全運動では、子供と女性の犯罪被害防止、特殊詐欺の被害防止、侵入強盗、侵入窃盗の被害防止の3点を運動重点として掲げ、自治体や事業者、防犯団体等の幅広い層の方々と連携し、地域安全活動を集中的に実施することとしており、道警察におきましては、登下校時間帯における警戒やパトロール活動を強化するほか、痴漢や盗撮等の性的犯罪の被害防止に向けた警戒や広報啓発活動を推進して参ります。

特殊詐欺の被害防止につきましては、お金を要求するなど不審な電話がかかってきた際、気軽に警察に相談していただけるよう詐欺電話が来たら#9100という統一フレーズを用いて、警察相談ダイヤルの周知を図る取り組みや高齢者に伝わりやすい広報啓発活動を推進するとともに、侵入強盗、侵入窃盗の被害防止につきましても、自治体や防犯協会、防犯ボランティアの方々と連携し、住宅等に対する防犯診断、防犯指導等を実施するなど、地域住民の防犯意識の高揚を図るための施策に取り組んで参ります。

皆様におかれましても、引き続き、それぞれの地域やお立場で、地域の安全安心の確保に向けた活動に御協力を賜りますよう、お願ひ申し上げます。

結びに、本日お集まりの皆様のご今後ますますの御多幸と御健勝を心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願ひいたします。

3. 来賓祝辞

司会) 続きまして、御来賓を代表いたしまして、北海道議会環境生活委員長 中野渡志穂様より御祝辞をいただきます。

よろしくお願ひいたします。

中野渡環境生活委員長) ただいま御紹介いただきました北海道議会環境生活委員長の中野渡志穂でございます。



本来であれば、富原議長が出席しご挨拶申し上げますところですが、あいにく、他の業務のため出席ができませんでしたので、代わりまして私から一言ご挨拶を申し上げます。

本日お集まりの皆様方におかれましては、日頃から地域における防犯活動に多大なるご尽力をいただいておりますことに、心から敬意を表しますとともに、厚く御礼申し上げます。

また、各地域におきまして、犯罪のない安全で安心な地域づくりに率先して取り組まれ、本日表彰を受けられる皆様に心からお祝いを申し上げます。

さて、先ほども、鈴木知事や鈴木道警本部長からのご挨拶にもございましたが、近年、減少傾向にありました道内の犯罪の認知件数が、昨年は増加に転じました。

女性や子供に対する犯罪のニュースがテレビで流れたり、高齢者を狙った特殊詐欺の話を目にする機会も多く、身近なところで発生している犯罪に強い不安を感じております。犯罪や事故を1件でも減らすためには、私たち、道民一人ひとりが防犯ボランティア活動や交通安全運動など様々な社会活動に自主的に取り組み、地域の生活環境を改善していくことが何よりも大切であります。

そして北海道が推進しております「安全安心どさんこ運動」は、地域の皆様が行う自主的な活動を一つの道民運動として結びつきを強め、人、地域、社会のきずなを深めて、地域のコミュニティ機能を高めていく取り組みであります。

こうした取り組みを北海道全体に広げることや、お互いを気づかい思いやる機運の醸成を図っていくことが、犯罪のない社会づくりを進めるにあたり、大変意義深いことと考えております。

私ども、北海道議会といたしましても、関係機関の皆様との連携を一層深め、道民の皆様が安心して笑顔で暮らすことのできる地域社会の実現に向けて、全力を挙げて取り組んで参る決意でございます。

皆様におかれましても、引き続きご尽力いただきますようお願いいたします。

結びとなりますが、本日お集まりの皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございました。

司会) 中野渡様、ありがとうございました。

4. 表彰

司会) 続きまして、プログラム4の令和5年度北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞の表彰式を行います。

舞台の準備がございますので、今少しお待ちください。

(舞台転換)

北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞は、北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり条例に基づきまして、安全で安心な地域づくりについて、他の模範となる顕著な功績があった個人や団体、事業者の方々を表彰し、広く紹介することにより、道内各地の自主防犯活動を奨励し、積極的な防犯活動の促進を図ることを目的として実施するものです。

今年で19回目を迎え、これまでに72件の個人、団体の方々を表彰しております。

今年度も市町村を始めとする関係機関から、合計31件の推薦をいただき、本賞実施要綱等に基づき、有識者の方々のご意見を踏まえ、受賞者を決定しております。

今年度、受賞されますのは、富良野市の春日東町連合会様、室蘭市の蘭中地区子どもを守る推進協議会様、ニセコ町のラジオニセコ様、東川町の東川町防犯協会様の4団体です。

それぞれ地域におけるパトロール活動や防犯環境の整備、防犯活動の普及促進など、安全で安心な地域づくりに特にご功績が認められた方々でございます。

今回受賞されました方々の活動などにつきましては、受付でお配りしました「表彰のしおり」をご覧くださいますとともに、この後に活動事例発表としてお話しをしていただく予定となっておりますので、この場でのご紹介は省略させていただきます。

お待たせいたしました。それでは受賞者の方々が御入場されます。

皆様の拍手でお迎えください。

(受賞者入場)

これより、北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議会長 鈴木知事から受賞者の皆様に賞状を贈呈いたします。

鈴木知事は舞台中央へお進みください。

(鈴木知事、舞台中央に移動)

はじめに、富良野市、春日東町連合会様、前へお進みください。



鈴木知事) 北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞、春日東町連合会様、貴団体は関係機関と連携した防犯パトロールや見守り活動のほか、他地域の模範となる先駆的な取り組みなど、防犯と青少年非行防止のための活動を長年にわたり積極的に実践され、安全で安心な地域づくりに貢献されました。ここに、その功績をたたえ表彰します。

令和5年10月11日、北海道知事鈴木直道。おめでとうございます。



司会) 続きまして、室蘭市、蘭中地区子どもを守る推進協議会様、前へお進みください。

鈴木知事) 北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞、蘭中地区子どもを守る推進協議会様、貴団体は、児童生徒の登下校時における見守り活動や声かけ運動を実践されるなど地域全体で子どもの見守り活動に取り組みられ、その熱心な取組は他の地域の模範となるなど、安全で安心な地域づくりに貢献されました。ここにその功績をたたえ表彰します。

令和5年10月11日、北海道知事鈴木直道。おめでとうございます。



司会) 続きまして、ニセコ町、ラジオニセコ様、前へお進みください。



鈴木知事) 北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞、ラジオニセコ様、貴放送局は、「地域とのつながりを大切にするコミュニティづくり」というコンセプトのもと、住民とともに身近な防犯情報や災害情報を効果的に発信し、地域の防犯意識を高めるなど安全で安心な地域づくりに貢献されました。ここに、その功績をたたえ表彰します。

令和5年10月11日、北海道知事鈴木直道。おめでとうございます。



司会) 続きまして、東川町、東川町防犯協会様、前へお進みください。



鈴木知事) 北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞、東川町防犯協会様、貴団体は、児童の入学時期や歳末など機を捉えた防犯パトロール活動のほか、住民の防犯意識の高揚や自主防犯活動の促進を図るための生活安全教室を創意工夫して開催されるなど、安全で安心な地域づくりに貢献されました。ここに、その功績をたたえ表彰します。

令和5年10月11日、北海道知事鈴木直道。
おめでとうございます。



司会) 賞状の贈呈は以上となります。鈴木知事はお席にお戻りください。

受賞されました皆様方、おめでとうございます。受賞されました方々に今一度、大きな拍手をお願いいたします。

受賞者の方々及び主催者、御来賓の皆様におかれましては、この後、記念写真撮影がございますので別室への移動をお願いいたします。

舞台の準備がございますので、少々お待ち願います。

(舞台転換)

5. 基調講演

司会) おたせいたしました、それでは、プログラム5、基調講演をいただきます。

本日、講師を務めていただきますのは、東北大学大学院文学研究科・文学部准教授の荒井崇史様でございます。

荒井様は、平成23年3月に筑波大学大学院人間総合科学研究科心理学専攻課程を修了された後、平成24年4月から、追手門学院大学心理学部及び同大学院心理学研究科の講師として勤務されました。

その後、平成29年4月から、同大学及び大学院の准教授として勤務され、平成30年4月から、東北大学大学院文学研究科の准教授に就かれております。

ご専門の研究分野は、社会心理学及び犯罪心理学で、犯罪予防行動の促進、犯罪情報の効果的な発信、暴力の発現メカニズム、デート暴力及びストーカー行為など研究課題は多岐に渡っており、それらに関する多くの論文や著書を出されています。

また、全国各地で開催されている防犯や安心・安全なまちづくりに関する研修会等の講師としてご活躍されております。

本日は大変お忙しい中、「犯罪予防の心理学—闇バイトを広めないための対策—」と、「継続的な防犯ボランティアのために」と題しまして、ご講演をいただきます。それでは荒井様、よろしく願いいたします。

講師 荒井崇史氏) ただいまご紹介に預かりました東北大学の荒井と申します。



講演に先立ちまして、本日表示を受けられた団体の皆様おめでとうございます。いろいろな防犯ボランティアの活動をされている団体の皆さんと会う機会がありまして、北海道

のみならず、東北地方いろいろな県を回って、団体さんの話を聞いたりして参りました。そうした中で、それぞれ長い歴史を持って活動されている団体さん、まずは敬意を表したいと思います。

その上で今日は、そうした活動に少しでも資する話ができたら良いなというふうに思いまして、二つ話を持って参りました。



一つは、ここに挙げられていますとおり、闇バイトを広めないための対策ということで、テレビなんかで、皆さんご覧になったことがあるかなと思うのですが、最近というほど最近ではないのですが、多くの若者を犯罪の道に走らせているような、反社会的な行いがあります。そういったものを改めて考えてみようということで、本日は半分、闇バイトを広めないための対策について話をさせていただきます。

それから継続的な防犯ボランティアのためにということで、防犯ボランティア団体の方、こうやって見ますと結構いらっしゃると思うのですが、そういった団体さんがご活動を今後も続けていくためにどういったことが必要か、いろいろな団体さんと話をしていますので、長く続いている団体さんの特徴ってどういうところにあるのだろうということを踏まえながら、少しお話ができれば良いかなというふうに思っております。

45分ほどですけれども、一つでも、皆さんの知識に残って、今日、お土産として持って帰っていただくと良いかなと思っております。早速ですけれども、話を始めたいと思います。

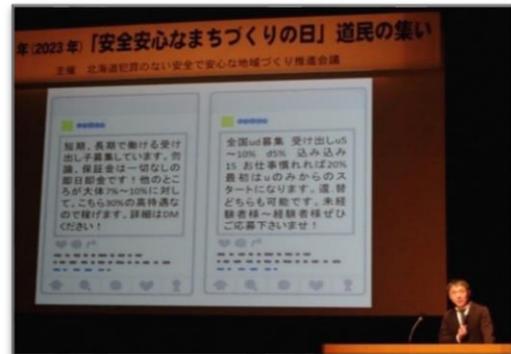
まず本日の目次として、先ほど申し上げましたとおり闇バイトについての話をしたいと思います。それから防犯ボランティアの効果と継続ということで、防犯ボランティア活動がそもそもどんな効果があるのかということ

であったり、その活動を継続するためにはどうということに注意する必要があるのかということについて、話をしていこうと思っております。大きく言うとこの2点について話をして、最後にまとめとして、お話をできれば良いかなというふうに思っています。

ということで早速1点目。皆さん、闇バイトという言葉ご存知ですかね。さすがに防犯ボランティアをやられている方は大丈夫だというふうに思いますが、SNS上でこんな文章を見たことはありますか。

実際に見られたという方は、あまり多くはないのではないかとと思うのですが、これ警察庁が公開している実際の文章をお借りしてきました。

「短期長期で働ける受け子、出し子募集しています。もちろん保証金は一切なし、即金



です。」と書いてあるのですね。それから右側ですけれども「全国u d募集」、「u d」って何かってことですが、受け子と出し子のことですね。受け出し、uが5~10%、dが5%、込み込み15、仕事に慣れれば20%のように、ちょっと若者向けの言葉、バイトに誘う文言。この時点では、別にここに犯罪をやってもらえますかって、もちろん書いてないですし、犯罪であると思わせないように、文書を作っている。

それにしてもあからさまなので、見る人が見たら分かると思うのですが、そんな文言で若い子達を陥れるということ、他にもあります。冷やかしたと判断した場合、即ブロック、テレグラム、身分証必須、交通費支給、25から55歳。これは若い人だけではなくて、50代の人なんか勧誘するような文章になっていてですね。ハッシュタグが付いていて拡散されるようになっていきます。

それからですね、いろいろな絵文字を使って高額報酬のバイト紹介のように、どこにも

闇バイトなんてもちろん書いてないで、闇バイト募集にもかかわらず、コンビニでバイトすると同じような感覚で、若い人たちを誘っているということです。しかも、指示通り業務をこなすだけ、単に言われたことをやってくれば良いですよ、頭使わないで良いということで勧誘します。つまり、言ったことをやってくればそれで良いというわけです。

日給 20 万円から 100 万円、即日即金、女性・学生どなたでも OK、DM (ダイレクトメール) くださいというような形で勧誘してきます。これ、先ほど言った警察庁が公開している情報をお借りしてきました。

これは、ぱっと見、見る人が見たら明らかに「おかしいよね」ってわかりますけれども、若い人が見たらどうかということですね、お金がない、社会に出てお金を稼ぐっていうことを知らない人たちが、これを見て、簡単なバイトならやってみようじゃないかというふうに思うかもしれない、これが闇バイトの入口になっているということです。

これは全国的に問題になっています。警視庁なんかは、かなり強い表現でツイッターに挙げているのですけれども、若い人向けに情報を出しています。

ツイッターの画面をそのままちょっとお借りしてきましたけれども、「圧倒的愚」、愚かってことですね。闇バイトは犯罪実行役の募集ですということで、左下の方にですね、こんなふうにしてこれをやったら、犯罪者になるのですよということをアピールしているわけなんです。



皆さんご存知ですか、防犯ボランティアやられている方って、子どもの見守りとか地域の安全ということについては、僕なんかよりもいろいろなことを知っていると思うのですけれども、こういう SNS とか、インターネットを使った犯罪というのは日々進化してい

きますので、付いていくのが大変なんです。

この情報でも、既にもう遅いかも知れない、このスライドを作った時はこういう形だったけれども、とにかく早いのでこれが広まると、もうあつという間に次のやり口で募集をしているわけなんです

一つ目のポイントとして、闇バイトさせないためにどうするのかというと、予防する側が勉強しないといけないということですね、加害者はめっちゃくちゃ勉強しています。

なぜかとお金を稼ぐため、皆をだますために勉強している。防ごうとしたら防ぐ側も勉強しないと、これはなかなか防ぐということではできません。今日はですね、もう少しだけ話しをしますので、知識を蓄えていただくと良いかなと思います。

こういった闇バイトを募集してる人たち、どんな構造しているのか、これもテレビ、新聞なんかによく出ているので、ご存知かもしれません。時事ドットコムからお借りしてきました特殊詐欺グループをめぐる構造ということで、一番上に反社会的な集団ですね。この部分に組織がいるわけ、暴力団と限らないです。反社会的な集団、いろいろな集団がありますので暴力団と必ずしも限らないですね。そういったところがやり口を考えて、リーダーを育て、そしてリーダーに指示を出します。この時にやるのは、組織自体はリーダーと接触しない、すべてインターネット上のやりとりをだから誰が指示しているのか分からないというような構造になっています。

さらに、そのリーダー、これが先ほど言ったような具体的に SNS で拡散して、若い人たちを勧誘するということをやっています。上の誰から指示されているのかも全く分かってないわけです。リーダーはさらにその下の実際に犯罪をするような人たちに、自分の身元は絶対に明かさないです。

最終的に、かけ子グループとか、受け子、出し子グループが実際に高齢者からお金やキャッシュカードを奪ったりですね、強盗に入ったりということをやっています。この人達は誰から指示されているのか分からないわけなんです。ある時に携帯に応募したら携帯に連絡が来て、ここのお宅にスーツを着て行ってください、それしか情報がないわけなので、誰から連絡が来ているのか分からない。連絡が来るわけですから、携帯で分かるじゃ

ないかというふうに思うかもしれませんが、それは、全部盗んだ携帯とか、身元がばれないような携帯を使っていますので、要は足がつかないようになっていくということなのです。

特殊詐欺のグループというのはピラミッド構造をしていて、実際のところ受け子とか、出し子、そういった実際に犯行に及ぶ人たちのアルバイト代というのは非常に少額です。しかし、捕まるリスクは実際に犯行を起こす人たちが圧倒的に多いわけです。先ほども言ったように捕まっても、誰から指示を受けているか分からないので、携帯を提出するぐらいしかできないわけです。警察も苦労していると思うのですが、そこから遡ってその組織を特定するというのは、携帯を解析したりすることが必要になってくるわけです。そんな簡単にバレるようなことはしないわけですね。結局、下の方の人達だけが捕まって、大元の人達は捕まらないというような構造になっているわけですね。

そうなので、教育関係の方も今日おられると思うのですが、全く割に合わないバイトとだということは、「もうそんなの知っているよ」と言われても言い続けてください。先ずはそこからだと思います。20万、100万であなたは人生を棒に振るんですかというような話なんです。先ずは、子どもたちにこういった知識を持ってもらうというのが重要になってくるということですね。

そしてですね、意外と分かっていないのが、「逮捕されても大したことはないでしょ」と思っている子が多いのですが、そんなことはないです。逮捕されれば、実刑、法定刑で10年以下の懲役ですが、これが強盗になったら終身刑まであります。最近では、特殊詐欺に引っかけられなくなったので、強盗に入って、中で家の人に会ってしまって、家の人に怪我をさせたりしたら、大変です。強盗致傷になりますから刑としてはかなり重くなります。

こんなこと「社会」でも勉強しませんし、学校で勉強しないわけなんです。だけど、こういったことを教えてあげないと、実際のところ全くもって割に合わないということを知っていただくということが、重要なんじゃないかと思っています。

まず、防犯ボランティア団体の方ができるとしたら、この点を子どもたちに周知する。

いろいろな見守り活動をしていて、小学生に言うのはまだ早いかもしれないけれども、小学生でも、中学生でも良いです。小学生の場合は中学生のお兄さん、お姉さんがいるかもしれない。そういったところに情報が広がってくれば良いので、とにかく皆さんが情報を持って、それを子どもたちに広げてあげるといようなことをしていく必要があるのではないかなというふうに思います。まずはですね、この闇バイトに関する知識、これを持つことの重要性を皆さんにお伝えしたいとお話をしました。

それからですね、これ心理学的に考えるといろいろな罠があるんです。特殊詐欺ってそんなに引っかけられないのではないかと思うかもしれませんが、これが上手くできているのですね。

加害者は、これ心理学をやっている僕としてはどうかなと思うのですが、心理学の勉強をしています。おそらく、どうやったら人をだませるかということ勉強しています。

どういう罠があるのか、少しだけ紹介をしたいと思います。まず一度の出来心であれば、自分なら止めることが出来るはずというふうに皆思っています。これは、完全に勘違いです。自分だったらやめられると思う。これ薬物もそうです。自分は意志が強いから大丈夫。これは間違いです。意志が強かったらやらないので、一度でも行っている時点で意志が強いかどうかと言われると、そう強くないですよ。



特殊詐欺は巧妙で、これを止められない罠があるのです。どういう罠があるのかというと、先ほどの例文の一部を切り取ってきました。テレグラム、身分証必須って書いてありますね。

テレグラムというのは、投稿したものが時間とともに消えてしまうのですね。要は、足

がつかないようになっていきます。さらに、特殊詐欺、闇バイトをさせる時に身分証を出させます。いろいろな理由をつけますね。アルバイトをやる時、身分証が必要とかですね、通帳のコピーを出してね、お金振り込むからねと出させます。これが何か当たり前のように思われますが畏なのです。

この部分ですけれども、身分証を何のために出させるのかというと、そのバイトのためではなくて、脅しのために出させます。脅しのために出されるのですね。何をするのかというと「お前の身元はバレてるよ」ということを伝えるということなのです。あなたの身元は分かっていますからね、止めるのだったら、家族に危害を加えますよという脅し方をします。そしたら、止められなくなっちゃうわけですね。つまり、一旦、犯罪をしてしまうと。脅される恐怖と逮捕される恐怖に常に苛まれる。結果、家族に危害があったらどうしよう、逮捕されたらどうしようと恐怖に負けて、何度も犯罪を重ねてしまうということになってしまうわけです。

1回やったら止めようでは手遅れなのです。1回もやらせては駄目なのです。それがまずポイントとして挙げられるかなというふうに思います。

それから、これは、特殊詐欺に限らないのですが、人間は一度コミットすると簡単には止められないものなのです。つまり、私達にはひとたび決定をしたり、ある立場をとったりすると、これ、その事象にコミットするというふうに言いますが、コミットしてしまうと、それと一貫した行動を取るように自分の内からも外からも強く動機づけられるのです。これは人間一般の性ですね。一貫性原理と呼ばれているものです。皆さんライザップのCMを見たことあるのではないですか。「結果にコミット」、結果にコミットさせて止めさせないようにするわけですね。

これは1回それをやってしまうと、なかなか止められないよということなのです。これは先ほど言ったように私たちの癖なのです。複雑な現代社会を営む上で、要は思考の近道を提供してくれるわけなのです。

何を言っているのかというと、私たち人間というのは、思考的な怠け者なのです。考えたくないのです。

勉強するのを嫌いな人が、なんで勉強する

ことが出来ないかっていうと考えたくないからなのです。考えるのが大変なので、考えたくないのです。特殊詐欺を行ってしまって、それを止めようかな、いや、大丈夫かなと考えるのが面倒くさいから、もう1回やってしまったし、そのままでもいいやというふうになってしまうということなのです。

巧妙なのは闇バイト、最初に簡単な仕事させるのです。簡単な仕事。これ位なら誰でも出来るわというぐらいの仕事をさせるので、それを行うと1回コミットしてしまうことになるので、結果的に止めることができなくなってしまいうということになるわけですね。こうなってしまうと、他の人が幾ら何を言っても、耳を貸さなくなってしまうというのがですね、人間の特徴だということです。

ここにいらっしゃるのは高齢の方が多いので、同じような高齢の方が特殊詐欺の被害に遭ったときに、何で引かかったのって思うかもしれません。しかし、引かかっている間は1回コミットしてしまっているのです。「何かおかしいかも」と思っても、行為を止められないのです。銀行へ行って、言われるままにやっていたら余計なことを考えなくていいので、途中で止めるということ人間できなくなってしまうわけなのです。これを上手いこと闇バイトの人たちが使っているということです。

それからです、もう一つ、人間の特徴として挙げられるのは、私達は自分が正しいと考えたことはなかなか否定できない。こうしようと思ったら、自分を否定することはなかなかできないのです。

これは自己確証バイアスという現象です。これも人間の特徴です。私はこれが正しいと思ったら、その情報ばかり集めてしまうのです。

これは特殊詐欺とか犯罪に限らず、人間の全ての行動に当てはまるものというふうに言われています。例えば、禁煙をしようかなと思っているタバコ吸っている人って、不思議なことにタバコも良い面があるんだよという情報に飛びつきやすいのですよ。なんでか。自分がタバコを吸っているから、自己確証バイアスを働かせてそういう情報に飛びつき、タバコを吸うとがんになりますよというような情報は見ない。そういうのもあるよねというぐらいにしか見ない、無視してしまうの

ですね。

だから、闇バイトの方に話を戻しますが、「このバイトは大丈夫」というふうに信じると、おかしい点とか矛盾した点には目を向けなくなってしまうので、結果的に止めることができなくなってしまうということですね。

他の人の否定的な意見、「そのバイト犯罪なんじゃないのか」というような意見にも、耳を貸さなくなってしまうということ。これも人間の特徴なんですけど、自分の行動を自己正当化することによって後悔を回避したいという心理が働くのだそうです。これは昔の研究から言われているのですけれども、自分が間違っていたということを知って、後々後悔するのは嫌なんです。結果的に自分が正しいという情報ばかりを集めてしまうということが起こるということですね。

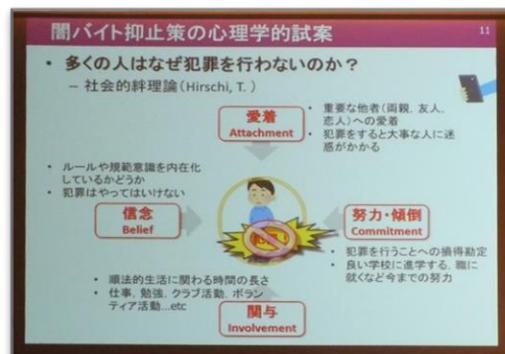
こういった罠を、これはいくつか例を挙げただけなのですが、特殊詐欺の人達は、グループの人達は、闇バイトを勧誘するためにかなり活用していますので、それを予防するというのを考えたときに、こちら側もいろいろなことを勉強しながらですね、じゃあどうしたら良いかということを考えていかなくてはいけないというのが、現状、出来ることかなというふうに思います。ただ、これは、人間の心理傾向なので、そんな簡単に修正することはできません。自己確証バイアスが働きます。一貫性原理が働きます。今二つ話を僕がしましたけれども、じゃあどうしたらいいのって言われると困っちゃうのですね、これまたどうにもならないのです。人間の特性だからどうしたらいいかって言われると、どうにもならないですねとしか言いようがないのですね。

なので、じゃあどうするかと言うと、この後、闇バイトを防ぐためにどうしたら良いのかというのを、スライド3枚で考えていきます。まずは、一つ目、これは皆さんにぜひやっていただきたいのですが、闇バイトの現実というのを知っていただきたいと思います。警察の方は多分良く知っています。例えばですが、このようなものがあるのをご存知ですか。政府インターネットテレビというのがありますね、ここに闇バイトは犯罪ですよというのを3分間の動画にまとめてくれた。これを作った方は、相当優秀な方なんじゃないかなと思うのですが、とっても分かりやすい、

3分間でこういうふうな勧誘の仕方をして、1回応募しちゃうとこうなりますよというところまで話をしてくれています。

例えば学校で、道徳の時間にちょっとだけ時間があるという時に見せても良いかなと思います。3分である程度の知識を持つことが可能です。知識を持つというのは、防衛策の第一歩として、かなり重要なことですから、今日こうやってここに来られた方は、是非、後でご自身で見てみてください。分かりやすいと思います。

それから、犯罪予防のためにどうしたら良いのかというのを考えていきます。そのヒントとして考えたのが社会的絆理論と言われるものです。これは犯罪学とか犯罪心理学の中で言われている理論で、簡単に言ってしまうと、ここにいる皆さんもそうですけども、一般の人達が何で犯罪をしないで済んでいるのかということを経験化したものです。ごく簡単に言ってしまうと、何で私たちが犯罪しないのかというと、4つの絆があるからだというふうに考えるものです。これが社会的絆理論と言われる所以ですね。4つの絆って何かというと、赤い文字で書いてある「愛着」、「努力・傾倒」、「関与」、「信念」というふうに言われています。



「愛着」というのを簡単に言うと、周りの人に迷惑がかかってしまうから犯罪しないようにしようというのが「愛着」です。「努力・傾倒」というのは、犯罪を行うことへの損得勘定ですね。今まで、こんなに努力してきたのに、犯罪に走ったら全部水の泡だと思う心が「努力・傾倒」です。「関与」というのは、遵法的な生活にどれだけ関与しているかっていうこと、つまり学校に行ったり、お仕事をしたり、建設的な余暇活動を過ごしたり、空いている時間にスポーツをしたり、文化的な取り組みをしたりというようなこと、こうい

った時間がある人は、基本的に犯罪をしないのですね。例えばここにいる人、今ここで犯罪をしないですよ。合法的な活動を行っている間は、犯罪ができないということなのです。

これが3つ目、4つ目は「信念」といわれるもので、これは皆さんが持っているルールとか規範意識ですね。「犯罪はやってはいけないよね」というような思いです。これらを皆さん持っているから、一般的な人は犯罪をしないんだっていうのが社会的絆というふうに言われる。

この観点から、闇バイトを止めるにはどうしたら良いかを考えてみます。ちょっとごちゃごちゃしたスライドになってしまったのですが、それでも、「愛着」、「努力・傾倒」、「関与」、「信念」のそれぞれについて、青い四角でいうことをやれるのではないかというアイデアを挙げておきました。



例えば、「愛着」ですけれども、これは誰かと繋がりを持つことです。誰でもいいです。友達でなくても良いのです。誰でも良いです。つまり、自分のことを見てくれる人がいるということ自体が重要なので、友達とか親友とかそんな強いものでなくても大丈夫なのです。ただし、デジタルではなくて、リアルである方が良いと思います。デジタルでは駄目とは言わないのですが、デジタルだと誰が相手なのか分からないので、リアルの世界で自分のこと見てくれる人がいるのだと思えるという事が重要ですね。

孤独とか孤立というのは、孤立担当大臣があるくらい重要な問題なのです。これはイギリスもそうですし、日本もそうですね。孤独とか孤立って、私たちの健康を阻害するというのは、いろいろな研究から言われています。死亡率が高くなるとかですね、そういったことも言われています。犯罪に走りやすくなる

ということも言われており、だから、このご時勢に言うのもなんですけれども、繋がりを持つということが重要だということですね。

ただし、できればリアルの世界での繋がりということですね。デジタルの世界では駄目とは言わないですけれども、ちょっと弱いかなというふうに思います。

これができるのは、全員です。ここにいる皆さん、誰にでもできますね。いきなり道端を歩いている人に声をかけたら、ちょっと不審者になってしまうかもしれないですけれども、繋がりを持つことは誰にでも、やろうと思えばできることですね。今日、ここに依頼があって来ましたが、これも一つの繋がりで、見守り活動されている方、見守りをしている中で、地域の人がちょっと「こんにちは」と挨拶するだけでも繋がるかもしれない。要は人と人の繋がりを持つということが重要なんだというのがですね、「愛着」になるのかなというふうに思います。

それから二つ目「努力・傾倒」ですけれども、これは一生懸命になれることを探せる環境です。これは、勉強だけではありません。若い人たちにとって、勉強だけではなくて、打ち込めることがあるということが重要だということですね。そして、努力が報われる関係性の構築が必要です。努力が認められることが重要なのです。当たり前のこと言っているのかもしれないですけれども、当たり前のことができないから、ここで話をしているわけで、もう一度振り替えて何ができるかということを考えてみると良いのかもしれないですね。これは家庭とか、教育の現場とか、地域社会もそうですけれども、こういった子どもたちにリアルに接する人たちができることになるのではないかなというふうに思います。

それから「関与」です。これは職業や学業的な充実とか、余暇活動の提供です。これは、行政の方が今日出席されていると思うんですが、行政とか、教育機関の役割かなというふうに思っています。例えばですけれども、若者が関わられるイベントだったり、学校の取り組みでも勉強だけではなくて、いろいろなことができるのではないかなというふうに思います。こういったことを行っている間は、基本的に犯罪をしませんので、そういった時間を提供する、場所を提供するというのが、

一つ皆さんができることなのではないかなと思います。

それから4つ目ですね。「信念」ですけれども、これは若年からの教育ということで、小学生のうちからメディアリテラシーの教育を行うことが考えられますね。先ほどの3分間の動画でも良いと思うのですが、そういったことを早期に伝えるということですね。薬物の教育は小学生からやっていると思います。なぜ闇バイトの教育は小学生から行わないのかちょっとよく分からないのですが、やってもおかしくないと思います。そういった形で、とにかく「こういうことが起こっていて危ないんだよ」ということが、相手が理解できるかどうか分からないけれども伝えるということが、重要じゃないかなというふうに思います。これは教育と家庭の役割になるのではないかなと思います。

それから、もっと根本的な部分として、衣食住、教育が平等に受けられる社会の構築ですね。今日、知事さんが来られるということで言おうと思ったら、多分もう帰られたのかな、お忙しいかなと思いますので、直接、そのうち会ったらお伝えしようかなと思います。やはりお金がなかったら、お金欲しいですよ。皆が平等にお金を稼げる社会というのがやはり必要なんじゃないか、そのために政治家の方には頑張っていただかないといけない。これはちょっと大きな話なので行政の役割なのではないかなというふうに思います。

かなり時間を取って話をしてしまいましたけれども、今回の話を聞いて興味あるなあと考えた方は、是非、こちらを見てみてください。これもインターネットで見ることができます。警察庁のホームページに犯罪実行者募集の実態という10ページ位の文章があります。これは、応募から、犯行後に、どういふ社会が待っている、闇バイトに走ってしまった後に、どういふふうになっていくのかということが事細かに書いてあります。警察庁が把握している情報がこれに載っていますので、是非、御覧いただければと思います。情報として、もしかすると古くなってしまうかもしれませんが、ただ知っていて損はないのではないかなというふうに思います。特に防犯ボランティアをされて地域の安全を守ろうと強い心を持たれている方、10ページ位は、そんなに大した分量ではないと思いますので、

是非ご覧いただければというふうに思います。結構、生々しく書いてあります。実際に被害に遭った人はもちろん、こういうふうに思いましたとか、少年たちの言葉がリアルな情報が入っているのではないかなというふうに思います。

前半と言いながらだいぶ時間を使ってしまいましたけれども、2点目はですね防犯ボランティアの効果と継続ということで、あと10分ほどで話は終わるかなと思います。その前に、この時間帯に40分話を聞くというのは結構つらいと思いますので、ちょっと息抜きに休憩のために、ゲームというか、クイズを持ってきました。これは、いろいろな防犯ボランティア団体の方にやっていただいているのですが、是非考えてみてください。

今画面に映している左側の図には、ろうそく、画鋸、マッチがあります。これを使って、こちら側の壁にろうそくを蠟が垂れないようにくっつけてください。黄色で示した壁に蠟がテーブルに垂れないように取り付けてください。思いついたという人いますか。流石にこの場で手を挙げてというのも何なので、それはやめようかなと思いますけれど、1つだけ良く出てくるのですが、テーブルの下に付けたら良いじゃないかと言われるのですが、それはなしでお願いします。テーブルの上につけるのですが、テーブルの上に蠟が垂れないように付けてねということです。

これは、れっきとした心理学の実験なのです。下に書いてありますダンカーという人が、1945年に出した論文の中で用いた実験なのです。認知心理学と言われる領域の実験で、私たちの考えているのが、いかに固定的かということを示した実験です。それでは、答えをお見せします。



合っていたかどうか確認してみてください。こんなふうにしたら良いというのが出てきます。「思いつきました」という人いますか。

いますね、素晴らしいですね。今手を上げてくださった方、きっと頭がやわらかいのですね。ということは皆さん頭が固いということなんですね。

これ、別に皆さんが悪いわけじゃないのですよ、皆さんが悪いわけではなくて、これまた人間の癖なんですね。機能的固着というのを起こしてしまうのです。何を言っているかという、画鋲の箱です。これは画鋲の箱であるというふうに思ってしまうと、それを使って何かをしようというアイデアが思い浮かびにくくなってしまいます。これが機能的固着って言われるものです。もうちょっと平たく言うと、一つの機能があるものに付与すると、その機能でしか物事を考えられなくなってしまうということです。今、僕、マイクを使って話していますが、マイクと思ってしまうと、声を大きく皆さんに伝える、聞こえやすくするものであるというふうに思いがちですけれども、これで頭叩いてもいいでしょうし、何にでも使えるのです。ただマイクだと思ってしまうとマイクでしか使えないということが起こる。これが機能的固着ということです。これで何を皆さんにお伝えしたいか、今日一番お伝えしたいことなのですから、慣例にとらわれない柔軟な思考というのを持って欲しいということなのです。



これ防犯ボランティアをやられている団体さんに毎回言っているのですけれども、防犯ボランティアに決まりってないのですよ。これをやらなくてはいけないとか、こうしないといけないというルールはないんです。好きなようにやって良いのですよ。それを思い出して欲しいということなのです。

いろいろな防犯ボランティア団体、日本全国いろいろなところに行って、話をしています。先週も大阪に行って、大阪府警の人と話したりもしてきましたけれども、全国回って

いると、とんでもなくユニークな活動をされている団体さんがあるのです。例えば奈良で活動されている団体さんは、防犯ボランティア活動をほとんどやっていなくて、ほとんど祭り、ずっと祭りをやっているのです、なんかよく分かりません。時々防犯ボランティア活動している。でも、それでもいいですよ。ボランティア団体だから防犯ボランティアしかしなくちゃいけないという決まりはないので、防災のことやっても良いですし、清掃活動やっても良いですし、子どもたちと一緒に何かやっても良いですし、地域の祭りをやっても良いですし、何をしても良いのです。今日お伝えしたいのはまさにその点で、固定的にならないでくださいということなのです。防犯ボランティアをやろうと思っちゃうと、なかなか人が入ってくれない。大変なことやりたくないで人間は、楽しそうにやっていたら、「何か楽しそうだな」と思わせたら勝ちなのです。楽しそうな団体に、周りの人たちはついてくるわけで、そういった活動をその地域その地域で探していただくといいんじゃないかなというような話です。突き詰めて言うと、そのことだけお伝えしたかったのが、最初にちょっと力を入れて話をしています。

防犯ボランティアは、そもそも効果があるのかということなのですが、いろいろな効果があるよというのは、科学的にも言われています。例えば、犯罪が減るとかですね、一般の人たちが安全安心を感じやすくなるとかですね。そういったことは、研究でも言われています。それとともに重要なのは、何の活動をしていても良いですよって言ったのは、何かということ、地域で何かを行っていること自体が重要だからなのです。

これは、集合的効力感という言葉で表すことができるのですけれども、その地域の人達が一体となって何かに取り組んでいる。それだけで犯罪が減ると言われているのです。防犯ボランティアだけじゃないのです。お祭りでも良いのです。ただ、その地域では、それぞれがお互いに顔を知っていて、仲が良さそうに見える。それだけで犯罪者は、その地域で犯罪したくなくなるのです。何故かということ、見られたら嫌な犯罪、例えば、空き巣とか、子どもを狙った犯罪とか、そういったものは見られたくない犯罪ですけれども、仲の

良い地域で何が言えるのかというと、誰が見てどこに情報が伝わっているのか分からないので、そのような所で犯罪者は犯罪をしたくないわけなのです。

だから、お互いに会話もしないし、会っても挨拶もしない、何か殺伐とした地域で犯罪をするわけですね。要は、犯罪者は、わざわざ捕まるような場所で犯罪はしないという訳で、その捕まるような場所をどうやって判断しているのかというと、その地域がまとまりのある地域かどうかということなのです。それが集会的効力感と言われるものの力なのです。実際にですね、科学警察研究所の研究者が示しているデータなのですけれども、住民が相互に繋がり、信頼しているコミュニティほど犯罪が少ないとされています。黄色い方が、これが暴力犯罪です。白い方が窃盗、侵入窃盗です。地域のまとまりが強いほど、犯罪が起きにくいということが統計的にも言えるということです。

その時にポイントとなるのは、防犯ボランティア活動だけではないんです。地域としてお互いによく顔を知っていて、まとまりがあるかどうかということなんです。そう考えたときに、地域の連帯感を高める手段というのは必ずしも防犯ボランティア活動だけではないので、こだわり過ぎないようにした方が活動も長く続け、地域も安全になると言えるということです。お祭りでも良いと思いますし、いろいろなイベントでも良いと思います。環境改善活動、清掃活動でも良いと思いますし、交通安全運動でも良いと思います。防犯ボランティア活動でなくても良いのです。とにかく地域がまとまりあるかどうかということが重要なのだと言うことですね。なので、防犯ボランティアにこだわりすぎず、皆さんが楽しめる活動を地域を巻き込んで行うことが重要なのだということです。

この点を先にお伝えしておきたいと思いません。時間的にはもう数分しかないのですが、もう少し話をして終わりにしたいと思うのですが、何の話をするのか、どの団体さんと話しても出てくる話を一つだけして終わりにしたいと思いません。

それが何かというと、メンバーの高齢化の問題です。活動の継続を考えたときに、うちの団体は一番若い人で60代です、70代ですという団体さんを幾つも見てきました。「若い

人が入ってくれないんだよね」、「どうしたらいいですか」と個別に相談を受けたりします。これは、ここにいる団体さんもそうなんじゃないかなと思いますし、日本全国どこにいても同じなのだろうと思います。

どうしたら良いか一言で解決するすべがないので、そこは歯がゆいところなのですが、どうしたら良いかいくつかアイディアを持ってきました。

一つ目は、最初のハードルを下げてください。いきなり、毎日、立番は辛いです。やはりなかなか行ってくれないです。最初は週に1回でも良いし、月に1回でも良いし、半年に1回でも良いと思います。最初にハードルを下げていただくと、先ほど最初に話しました人間はコミットすると、その後も継続してやってくれますので、先ずは一步踏み出してもらうために最初は簡単なことを行ってもらうようにしてください。悪い人達がそれを行っているわけですから、私たちが行っているわけではないということはないわけです。最初に簡単なことを行ってもらうことが重要だということです。

それから2点目、防犯活動以外の楽しみを増やしてください。それは何かというと、防犯活動だけにこだわらないでくださいという先ほどの話と一緒に。活動を楽しそうに行っているなと思ったら、その団体に入りたいという気持ちも湧くけど、皆暗い顔で疲れたという雰囲気のある団体に入りたいと言われると、なかなか入りにくいですよ。ですので、楽しい活動を増やして、自分たちも楽しんでいただければと思います。

それから狙いを定めた情報発信として、誰に協力を得たいのかによって、情報の出し方を変えてください。例えば、若い人達に入りたいのだったら、今のご時世SNSを使わないと見てもらえないです。チラシなんてほとんど見てくれないですからね。若い人たちには、SNSを使って、情報発信をしてください。

それからもう一つ、他の団体と協力ネットワークを構築することも重要です。最近、東大の先生と一緒に研究しているものがあるのですけれども、団体同士の繋がりがある団体って、継続する可能性が高くなるのだそうです。その理屈は、お互いに助け合えるので、長く続くということとその東大の先生は言っ

ていましたけれども、他の団体さんと絶縁するのではなくて、行えることとか一緒にできることは限られているかもしれないけれど、情報共有をしたり、いろいろな形で繋がるようにしていただくと良いのではないかなというふうに思います。

こういったことを通して、少しでも人材が増えることを祈りつつ、またいろいろ考えながら工夫していただければと思います。僕の方で「こうしたら良いのではないか」という明確な回答を出せば良いのですけれど、なかなかそうもいかないもので、これは僕の方でも考えますし、ぜひ皆さんでこういう実践をしたら良かったというのがあれば教えていただければと思います。

もう一つ、これも重要なポイントです。協力してもらおうという視点よりも相手に何をしよあげられるかの方が重要です。これ互惠性の原理というのですが、互惠性の原理が働くので、勧誘しやすくなります。これを、簡単に言うとお歳暮です。よく知らない人からお歳暮が来たと思うと、返さなくてはいけないと思ってしまうのが互惠性の原理です。相手に先に何かをしてあげると、相手も返してくれますので、活動に参加してくれる可能性が高くなるかもかもしれないということですね。

ということで、だいぶ時間をオーバーしてしまっているのですが、このくらいにしておきたいと思います。最後に、東北もそうですし、北海道もそうかなと思うのですが、土地が広いので一筋縄にはいかないのですけれども、若い人たちも、実はいろいろなことを行っているということをお伝えしたいと思います。例えば、大学がある地域なんかでは大学生がいろいろなボランティアをやっています。僕らのような壮年の人達、40代、30代の人達は仕事をしている可能性が高いので、なかなか入ってくれない。だとしたらどこを狙うのかというと、大学生を狙ってください。大学生は、体力がありますし、以外と協力してくれます。大阪の方なんかでは、大学と高齢者のボランティア団体が協力して活動していたりします。もし身近にそういった何らかの活動があるのであれば、そういったところと繋がって活動をされると、人材を確保しやすくなるのではないかなというふうに思います。そういったところも、考えていただくと良いかなというふうに思います。

ここまでいくつか話をしてきました、だいぶ早口で話をしましたので、やや消化不良になっている感があるかもしれないですが、このくらいにしておこうかなと思います。実はお話としてはもうちょっとあるのですが、この辺は飛ばさせていただきます。



最後にもう一度繰り返になりますが、防犯活動というのは、こうあるべきという決まりはないのです。こうしなくてはいけない、見守り活動しなくてはいけないってルールさえないのです。何をやっても良いので、地域に根差した活動とか、連携の仕方、それぞれですねいろいろな特徴があつて良いと思いますので、ユニークな取組を是非していただければ良いかなというふうに思います。それがひいては、その地域の安全に資することに繋がりますので、是非知恵を絞って、いろいろな取り組みをしていただくと良いのではないかなというふうに思います。

ご清聴ありがとうございました。私の話は以上で終わりにさせていただきます。

司会) ありがとうございます。

本日の貴重なお話につきましては、今後の安全で安心な地域づくりの取り組みに活かして参りたいと思います。

皆様、改めまして講師の荒井崇史様に大きな拍手をお願いいたします。

ここで5分間の休憩とさせていただきます。再開は、午後4時25分の予定でございます。お時間までにお席までお戻りいただきますようお願いいたします。

(5分間休憩)

司会) それでは再開いたします。

6. 活動事例発表

司会) プログラム 6、活動事例発表に移らせていただきます。

先ほど北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞を受賞されました皆様方から、地域で実践されている防犯活動の概要などにつきまして、発表をしていただきます。

最初に、富良野市の春日東町連合会様、御発表をお願いいたします。

春日東町連合会 本間氏) 春日東町連合会 本間幹章と申します。よろしくお願ひします。



これは連合会のエリアです。世帯数が 642 戸。75 歳以上が約 300 人、先月行った敬老会の対象人数が約 300 人と、高齢化になっている連合会です。

活動内容ですが、昭和 48 年 4 月に連合会が結成されました。56 年 4 月に防犯と青少年非行防止推進地域を宣言し、モデル地区に指定されました。

平成 18 年 5 月、防犯パトロール隊を結成し、夜の防犯パトロールを春から秋にかけて月 1 回実施しておりました。

平成 19 年 9 月、青色回転灯装備車両団体に警察で登録し、青色パトロール車で、夜の防犯パトロールを開始しております。



平成 24 年 4 月から、新役員体制に移行し、旧看板の文字が見えなくなっていましたので

新型看板ということで、現代的に改善して 2 年間で取り替えを実施しました。

平成 29 年 3 月、千葉県で通学中の小学生が誘拐された後、死亡して発見された事件の犯人が PTA 会長だったという事件がありました。この頃私は役員をしまして、また連合会では会員の高齢化が進み、夜間の防犯パトロールに出歩けなくなった、そういう方が段々増加してきました。それで令和元年 4 月に夜間防犯パトロールから、子供安全パトロールに移行することとなりまして、富良野警察署に青色パトロールの書類を提出し、7 月に許可がおりて準備が完了しました。

8 月 20 日、夏休み明けの登校日から、子供の見守りパトロールを開始し、新型コロナ禍の中でも、子供安全パトロールを実施し、今でも継続中であります。中身的にはパトロール隊 4 名と。個人の青色パトロール車で巡回を実施しております。民生委員さんは横断歩道にて子供の誘導をしております。

令和 3 年 7 月、コミュニティーセンター敷地内に防犯カメラを 2 台設置しました。

令和 4 年 10 月 1 日、富良野警察署から、特殊詐欺対策モデル地区に選定され、特殊詐欺根絶宣言を実施しました。連合会役員と、民生委員児童委員が参加しております。

10 月 20 日、特殊詐欺被害モデル地区活動報告を、警察の方に実施しました。連合会にて通話録音機を 12 台購入し、連合会長宅や、町内会長宅、民生委員児童委員宅に 12 台を取り付けました。

また、モデル地区の旗を新設し、イルミネーション時期には、照明を点灯させております。しかし、長持ちはしないため、モデル地区の新看板をただいま製作中です。

活動状況の課題と取り組みですけれども、お年寄りの現状としては、録音機自体が知らない、自分ではインターネットができないから購入できない。取り付け方が分からない、操作が分からない、また、行政の支援がないとか、どこに相談してよいのか分からない、ということが分かりまして、連合会の取り組みとして、民生委員さんに協力していただいて、家庭訪問時に詐欺対策の方法を説明してもらっております。

そこで、事務局に通話録音機の実装希望の連絡が来ますと、事務局で装置をネットで購入して、民生委員さんと事務局で希望者

宅に訪問して取り付けをしております。令和5年1月から取り付けの方々には、防犯対策電話録音機の説明を取り付け時にしております。

これはST386という装置になります。これからこの装置の説明をします。相手から電話が来ても電話のベルはなりません。まず、取り付けした録音装置から相手に音声を流します。「この電話の通話は、防犯のため会話内容を自動録音いたします。」と警告の音声は相手の方に行きます。詐欺の相手は録音されると電話をプツンと切ります。録音されると困る人は、電話を切りますので、詐欺被害1件防げることになります。

また、相手が切らないときは、電話機に呼び出し信号が流れて、着信音が鳴ります。電話に出て相手とお話をします。相手が知らない人の時は、電話を切ってくださいと説明をします。

実際に電話をかけて練習しています。私が携帯でかけて、実際に納得してもらってやっています。それで、相手の質問に答えないでください。しつこければ、警察に電話しますよと言って電話を切ってくださいというように説明しております。現在まで通話録音機の取り付け台数は19台となっています。

以上で活動事例発表終わります。ご清聴ありがとうございました。

司会) ありがとうございました。

続きまして、室蘭市の蘭中地区子どもを守る推進協議会様、御発表をお願いいたします。

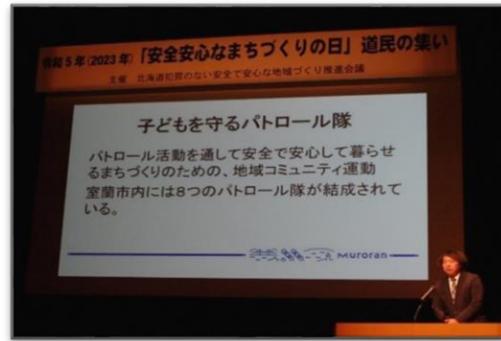
蘭中地区子どもを守る推進協議会 柳井氏

皆さんこんにちは。本日、蘭中地区子どもを守る推進協議会の会長並びに役員の皆様におかれましては、地域安全大会という、地域の防犯関係の会合に参加かしておりますため、私が代理で、事例発表させていただきます。

私は室蘭市地域生活課の柳井と申します。よろしくお願いたします。

本日受賞をさせていただきました蘭中地区子供を守る推進協議会については、町内会、学校、地域の団体が連携して、市内において不審者被害などから子供を守るパトロール活動を通して、安心して暮らせるまちづくりを行う、子供も守るパトロール隊の一つとなっ

ております。



市内には、8つの地区パトロール隊があり、市内全体では1,300名を超える協力隊員がいます。室蘭市としましても、各パトロール隊に物品の購入支援などを行っているところ です。

この蘭中地区子どもを守る推進協議会につきましては、平成18年の設立から今年で17年を迎えました。会員は、5つの町内会役員を中心に80名ほどおります。沼田利治会長は、市の町内会連合会の会長でもあります。

平成20年に洞爺湖町で北海道洞爺湖サミットが開催されるにあたって、室蘭警察署より、犯罪のない安全安心なまちづくりのために、組織設立を促され設立し、現在まで活動を継続しているところ です。

活動事例につきましては、会を結成以降、青色回転灯の巡回パトロール、青パトを基本活動としながら、写真にもありますように、スクールバスの乗降時などですね、登下校の際の安全見守り活動であったり、町内会のお祭りの際の相互巡回パトロールに加えまして、警察署並びに行政の防犯活動にも積極的に参加していただきながら、地域における犯罪の防止・抑止に努めております。

実際に活動の成果は、結果に現れておまして、同地区における、児童生徒の不審者被害はですが、平成18年の協議会設立以前の4年間で28件だったのに対し、設立後は、年平均1件ほどに減少しております。

先ほどの講演にもあったのですが、繋がりが強い地域の方が犯罪が起きにくいといったところの、実際の例の一つかなと思っております。

室蘭市としましても、この蘭中地区子どもを守る推進協議会をはじめ、パトロール隊の皆様には、犯罪・事故の未然防止に大きな効果をもたらしていただいていると感じている

ところであります。



最後になりますけれども、会長より、受賞のコメントを預かっておりますので紹介したいと思います。

この度は、このような栄誉ある賞の受賞に大変恐縮しているところであります。ともに活動している会員の方々や、関係機関、団体の方々の、多大なご協力、ご支援のおかげと深く感謝しておりますとのことでした。

発表は以上になります。この度は誠にありがとうございました。

司会) 蘭中地区子どもを守る推進協議会様、ありがとうございました。

続きまして、ニセコ町のラジオニセコ様、御発表をお願いいたします。

ラジオニセコ 宮川(氏) こんにちは、ラジオニセコ放送局局長の宮川博之です。



今写っている写真をご覧になっていただくと、いろいろな方がラジオニセコに出演されております。

ラジオニセコ、2012年3月に開局したコミュニティFMラジオ局として、日々、安全、安心、地域の方の安全安心を守るための情報を発信することはもちろんのこと、たくさんの方に出演いただいている放送局となっております。

そんなラジオニセコは、合言葉が、「ラジオ

ニセコは聞くだけじゃあない出るラジオ」、地域の方みんなが参加してラジオニセコに訪れ、情報発信する放送局として活動しています。

もちろん地域の人だけではなく、地域に遊びに来た人、また、温泉に入りに来てふと立ち寄った人、いろいろな方が、ここに集まります。

地域のハブとなり、そして、そこで様々な情報交換をすることで、人と人が繋がり、様々なコミュニティをつくり、そのコミュニティ同士が繋がっていく、それがまちづくりの一つの何かになるのではないかと、ここ10年やって参りました。

その人と人との繋がり、その繋がりから様々な、先ほど荒井先生のお話もありましたが、安全を防ぐという効果も、あったのかなと感じているところです。



引き続き、コミュニティFMなんてよく言ったものだと思いますが、コミュニティFMとして人のコミュニティの輪をつくる、そのラジオ局として、ニセコ町で放送を続けていきたいと思います。

以上、ラジオニセコの紹介でした。

司会) ありがとうございました。最後に東川町の東川町防犯協会様、御発表をお願いいたします。

東川町防犯協会 阪部(氏) 皆さん大変お疲れ様でございます。上川郡にあります。東川町防犯協会でございます。



わずかな時間になりますが少々おつき合いいただければと思います。

東川町防犯協会の構成でございますが、少年補導員の皆さん、それから人権擁護委員の皆さん、民生委員などの関係機関の皆さんで構成をしております、現在は24名ほどの構成員で活動しております。

設立の沿革でございますが、昭和50年に東川町と、警察等の関係機関により防犯協会として設立をいたしました。

以降、犯罪のない安全で安心な地域づくりを目的に活動をしてきております。

平成22年には、青色防犯パトロールを開始しております、現在車両3台で活動しており、年約5回パトロールを実施しております。

この青色防犯パトロールの他に、町内のお祭りを中心に年間2回から3回ほど、お祭り会場を巡回してパトロールをするという取組を継続しております。

令和2年には、北海道犯罪のない安全な安全で安心な地域づくり条例に基づきまして、知事より防犯活動推進地区の指定を受けまして、昨年、警察署等と連携をしまして実践型防犯教室ということで、プロの鍵屋さんをお招きしまして実践型の講習を行っております。

各活動の特徴でございますが、本町は豊かな自然の中で、写真甲子園を中心としました写真を核としたまちづくりを推進しながら、自分らしく豊かに暮らすことのできるまち、適疎なまちづくりを行ってきております。

防犯協会の活動の重点ですが、主に4点ございまして、一つが安全安心なまちづくりの普及活動、それから犯罪防止の取組み、それから地域防犯パトロール等の継続、最後に広報啓発活動の継続というところでございます。



具体的な活動としましては、新入学児童に

対しまして防犯ブザーの配布を行ったり、入学時期、それからイベント、お祭りなどでの防犯パトロール、それから写真にありますが、町内にシニアクラブが幾つかあるのですが、シニアクラブさん向けに講演など行って、啓発活動に努めているというところでございます。

そのような活動の中で、様々な効果が現れてきておりまして、東川町の過去10年の刑法犯罪認知件数を見ますと、平均22件ということで、低水準で推移しております、犯罪率は全道平均、それから全国平均を見ましても、大きく下回っているところでございます。

さらに本町の人口ですが、昭和25年に1万人を超えてピークに達していたものの、それ以降減少しまして平成6年には、7,000人に割り込んでしまったのですが、先ほど申し上げました写真甲子園など写真を核とした取組みを継続しております、平成26年には、42年ぶりに8,000人に回復しまして、今も緩やかに人口が増加しています。

安全で安心なまちづくりを目的としたこうした防犯協会の取組みが効果として現れてきているかというふうに感じております。

そのような中で、少し宣伝になりますが最近の町内の状況をご紹介させていただきます。

町内に温泉施設「きとろん」という施設がオープンしております、様々な種類のサウナがあり、露天風呂から町内を一望できる施設となっております。さらに共生プラザ「そらいろ」という施設も先日オープンしまして、健康増進施設になるのですが、誰もが気軽に利用できる施設となっておりますので、町内に、近郊にお越しいただいたときは、お立ち寄りいただければと思います。

最後に「カムイの歌」という映画も完成をしまして、こちら、アイヌ文化をテーマとした映画となっておりますが、11月23日には北海道で先行上映ということで、札幌ですとか旭川近郊で上映される予定となっております。

様々な取組を東川町で行っており、多くの方がこれからも訪れる町になっておりますので、今後も防犯活動を継続していきまして、居心地の良いまちづくりに寄与していきたいというふうに考えております。

以上で発表を終わります。ご清聴いただきまして誠にありがとうございました。

司会) ありがとうございました。以上で事例発表を終了とさせていただきます。

7. 北海道警察音楽隊コンサート

司会) 続きまして、プログラム 5、北海道警察音楽隊によるコンサートに移ります。ここで北海道警察音楽隊について、簡単にご紹介させていただきます。

北海道警察音楽隊は、警察活動に対する道民の皆様のご理解とご協力をいただくため、昭和31年に発足し、今年で67年になります。

犯罪や事故のない安心して暮らせる北海道の実現のために、道民と警察を結ぶ音のかけ橋として、道内各地において、交通安全や防犯活動などの啓発活動を始め、小中学校などでの音楽鑑賞会、福祉施設への訪問など演奏活動を行っています。

演奏は様々なジャンルから取り上げ、コンサートスタイルの演奏のほか、パレード演奏、ドリル演奏、曲に合わせた音楽劇などを行い、皆様に愛される音楽隊を目指し、音楽を通じて警察をより身近に感じていただけるよう心がけています。

なお予定より10分少々時間が過ぎておりますが、せっかくの機会ですので、音楽隊の皆様には、予定通り30分間演奏していただきます。準備が整うまでもう少々お待ちください。

司会) それでは、北海道警察音楽隊の皆様よろしくお願ひいたします。

音楽隊司会) お集まりの皆さん、こんにちは、北海道警察音楽隊です。



本日は、令和5年「安全安心なまちづくりの日」道民の集いにお招きいただき、ありが

とうございます。

私は、演奏の司会を務めます北海道警察音楽隊の江口です。どうぞよろしくお願ひします。これからのひととき音楽隊の演奏とカラーガード隊の演技をお楽しみください。

それでは、早速、演奏を始めさせていただきます。演奏は、北海道警察音楽隊、指揮は音楽隊長 松本でお送りします。

さて、これから演奏する曲は行進曲「秋空に」です。この曲は作曲者である上岡洋一さんの出身地高知市の青空を思い描いて作られました。9月のある日に夏の青空とは別のどこまでも深い、青く澄み透った空がやってくる。そんな美しい秋の空を描いた音楽をお楽しみください。それでは、お送りいたします「秋空に」。

(演奏)

音楽隊司会) 「秋空に」をお送りしました。

次にお送りする曲は、マツケンこと松平健さんが歌う「マツケンサンバ」です。実は、I (ワン) からIV (フォー) までであるこのマツケンサンバシリーズ、これから演奏する「マツケンサンバ」は第2作目で、松平健さんがゴールドに輝く着物姿で激しく踊る振り付けが当時注目を集め、話題となりました。

また、最近では、ティックトックや旧ツイスター、XなどのSNSで再ブレイクしており、幅広い年齢層から愛されています。パーカッションパートが軽快に刻むサンバのリズムをお楽しみください。それではお送りします「マツケンサンバII」。

(演奏)



音楽隊司会) 「マツケンサンバII」をお送りしました。皆さん、ここまでの演奏はお楽しみいただけましたか。

北海道警察では、このような演奏活動のほ

か、ユーチューブでも北海道警察公式チャンネルを使って広報啓発活動を行っております。私たち音楽隊の演奏動画はもちろん、スマートフォンの安全な利用方法や、白バイ隊員によるセーフティアドバイス、特殊詐欺の対処方法、そして先ほどの講演でもお話いただきました闇バイトに関する動画など、身近に起こる事件や事故を防ぐための大事なお知らせをわかりやすく発信しています。

また、シンボルマスコット「ほくとくん」や、北海道にゆかりのあるスポーツ選手などと協力して作成した動画もありますので、皆さん是非チャンネル登録をしてご覧ください。

さあ、ここからは、北海道警察音楽隊、カラーガード隊によるステージドリルをお楽しみいただきます。音楽隊の演奏に乗せて、カラーガード隊の旗などを使った演技やダンス。音楽隊員によるシンバル演技など、様々なパフォーマンスを次から次へと繰り広げます。題して「ミュージックパトロール2023」、どうぞお楽しみください。

(演奏)



音楽隊司会) 以上で、北海道警察音楽隊の演奏を終了いたします。

終わりにになりましたが、今後とも、北海道警察に対する変わらぬご支援、ご協力をよろ

しくお願いします。

また、皆様とお会いできる日を楽しみにしております。

本日はありがとうございました。

司会) 音楽隊、カラーガード隊の皆様、ありがとうございました。皆様、最後に今一度、音楽隊、カラーガード隊の皆様には大きな拍手をお願いいたします。

以上をもちまして、令和5年「安全安心なまちづくりの日」道民の集いを終了いたします。本日はご参加をいただき、まことにありがとうございました。

今後とも、犯罪のない安全で安心な北海道の実現に向けた取り組みにご協力をいただきますようお願いいたします。お帰りの際は、お忘れ物をなさらぬよう、また交通事故などに十分お気をつけください。

そして最後に一つお知らせがございます。本日資料の中に、電話番号が書かれたカードを1枚入れさせていただきました。このカードは、日本道路交通情報センターの詳しい電話番号が書かれたインフォメーションダイヤルカードです。

ラジオで、「高速道路は道央道が事故のため通行止めです。」このような声を聞いたことがある方もいらっしゃると思います。日本道路交通情報センターでは、こういったラジオ放送のほかにも、道路に関するお問い合わせを電話で直接お答えしています。

是非、この電話番号を活用していただき、交通事故防止と安全運転に役立てていただきたいと思っております。

本日はありがとうございました。

今後とも、犯罪のない安全で安心な北海道の実現に向けた取り組みに御協力いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

お帰りの際はお忘れ物ないよう、また、交通事故などに十分お気を付けください。

本日は誠にありがとうございました。



パネル展示 (ホワイエ)



参加者受付 (1Fロビー)